

# アーカイブ Data Report

NO. 76

(2021年2月16日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学\*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(\*岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

## GIGA スクール用のデジタルアーカイブ(教育リソース)のメタデータ は 4W か 4WR または 5W2H で構成するか ~When(いつ)Where(どこ)Who(だれ)What(なに)/Why(なぜ) How(いかに)Right(権利)か Human right(人権)か~

櫛彩見、谷里佐、林知代、加藤真由美、久世均、大木佐智子(岐阜女子大学)  
又吉斎(沖縄女子短期大学)

メタデータの記録項目の問題は、昔からいろいろ検討がされ、各分野によって構成されてきた。例えば、図書系ではダブリン・コア、博物館の CIDOC 情報カテゴリー、ISAD(記録史料記述の一般規則)、ISAAR(CPF)(団体、個人、家に関する記録史料オーソリティ・レコード)、LOM(学習オブジェクトメタデータ)などがある。また、最近ではデジタルアーカイブの流通が進み、ハブ、統合ポータル等の設置がされだし、そこでのメタデータの共有化の問題が課題になっている。例えば、「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」(平成29年4月、デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会)では、タイトル(ラベル)、作者(人物)、日付(時代)、場所、管理番号がメタデータの整理として共有のために必要とされている。これは管理番号を除けば基本的に 4W に関連した記録項目が重視されている。

### 1. 利活用、還元情報等を配慮したデジタルアーカイブのメタデータ

デジタルアーカイブでは保管・流通し、その利活用の結果の還元情報を用いて改善したり、さらに活用のための支援、注意情報等の保管が必要になる場合が多い。このため、2010年頃から知的創造サイクルの実施も進みだし、これらに対処できるメタデータの研究もされだした。(デジタルアーカイブでは、これまでの保管・流通の視点から、さらに利活用の視点へ発展しようとしている。)

そこでは、大きく分けると、

- ①基本的な保管・流通に必要な記録項目
- ②利活用：還元情報・改善等に必要な記録項目
- ③知的創造サイクル等に必要な記録項目

などで構成されている。①は基本的な項目であり、例えばダブリン・コア等が参考になる。②、③はこれまでのメタデータの使い方になかった事項であり、基本的には 4W1R であり、それに活用、還元情報、知的創造サイクル等を考えると 5W2H になる。

メタデータ

基本的な保管・流通に必要な記録項目
利活用・還元情報等の記録項目
知的創造サイクル等の記録項目

## 2. GIGA スクールでのデジタルアーカイブ(教育リソース)

GIGA スクールでのデジタルアーカイブ(教育リソース)では、単に保管・流通・提示等で終わるのではなく、その教育的な活用がなされる。特に、情報端末が1人ひとりの児童が利用できるようになり、それを学びの道具としての活用が進もうとしている。このような状況において、GIGA スクールに対応するメタデータの記録項目として、基本的にはいつ、どこ、だれ、なにと権利(R)の4W1Rの構成である。(ただし、重ならない管理番号の設定が必要である。)

ID(管理番号、重ならないように)

What(なに)：表題や内容の説明、索引語等

Who(だれ)：氏名(著者、作成者、実践者、開発者等の氏名、時には所属等)

Where(どこ)：場所(所在場所、保管場所等)

When(いつ)：年代、時代など

これらに対し、利用するにあたって著作権、プライバシー等の権利に対し利用の条件に関する情報が必要である。GIGA スクール構成での情報活用能力の育成には、多様なリソースから課題を見出し、それを友達等と工夫し解決する必要がある、そこで用いるコンテンツを時には加工処理して検討することもある。このためにはCC0、CCbyなどの条件や学校教育のための自由利用(マーク、文化庁)などの条件の記述が必要となる。

Right(権利)：利用の条件について、著作権、プライバシー、所有権等の利用許可・条件の記述が必要

このような共有・流通の活用の視点からの他に、GIGA スクールでは教育・学びの視点からのメタデータの記録活用が必要である。また、権利の視点からではなく、人権の1つとしての著作権・プライバシーの観点があり、権利(Right)⇒人権(Human Right)の観点が重要になる。

また、前にも記したように、利活用の支援の注意点、還元情報等さらにはPDCAサイクル、とくに改善等の情報が教育では必要となり、5W2H(2H：How、Human Right)の観点からメタデータを検討すべきであろう。

## 3. メタデータの例(岐阜女子大学、沖縄女子短期大学)

A表は、メタデータの基本的な項目(たとえば、ダブルリン・コア等に相当)とデジタルアーカイブの運用にかかわる項目で構成している。

B表は、メタデータとして、教育的な利活用やe-learningでの学修に必要な項目で構成している。

また、関連資料2は、学びの発展も考えた教育的な見地からの関連資料として学習者に提供している。

A表		
岐阜女子大学・沖縄女子短期大学 メタデータ整理記述項目		
	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	
3	資料名	
4	内容分類	
5	索引語	
6	説明	
7	形式	
8	氏名	
9	時代・年	
10	地域・場所	
11	利用条件	
12	関連資料1	
13	権利者	
14	協力者	
15	登録日	
16	登録者	
17	ファクトデータ	

B表		
18	特色	
19	活用支援	
20	利用分野	
21	改善結果	
22	処理プロセス	
23	関連資料2	
※項目12【関連資料1】と項目23【関連資料2】について、本用紙は記入用紙のため、メタデータ上は1, 2は同一項目とする。		